



活動スキル



教材のねらい

コンピュータや図書などの情報手段を効果的かつ適切に活用するための知識や技能が活動スキルです。情報活用能力の中でも、さまざまな学習活動を支える基本的なスキルです。高校編の「みやぎ情報活用ノート」では、「調べたことを発表しよう」「アンケートをつくろう」「クラウドサービスの利用と活用」の3点を用意しています。

「調べたことを発表しよう」は、情報を発信する場面であるプレゼンテーションの方法についてです。プレゼンテーションは、スライド等の提示資料の構成やデザイン、話し方、聴衆とのやりとりなど多様な技能が求められる学習活動です。「スライドなどの内容と設計」「話し方とアイコンタクト」「声量と発表態度」「聞き手とのやりとり」の4つの観点を例示しています。また、自分（たち）のプレゼンテーションを自己評価するだけでなく、他のプレゼンテーションを相互評価することで、お手本としたい姿を見つけさせたり、自らの改善すべき点に気づかせたりする機会を設けることで、活動の質を高めていくことができます。

「アンケートをつくろう」は、情報収集の手段としてアンケート（または質問紙）調査を計画する段階で、どのような仮説を設定するかを考えるためのノートです。質問紙による調査では、やみくもに項目を用意しても、適切な結果を得ることはできません。明らかにしたい課題に対して、さまざまな設問を考えることができますが、設問と設問の間にある関係を掘り下げることで、さらに深く分析することができます。ノートでは2変数の関係として相関関係に着目し、仮説を検討した上で設問づくりに取り組みます。集めたデータは散布図で関係を把握し、相関係数を求めるところを紹介しています。

「クラウドサービスの利用と活用」は、児童生徒が共同作業を行う環境としてのクラウドの利用に着目しました。GIGAスクール構想では、1人1台の端末が小中学校で整備されましたが、端末だけでなく、専用のアカウント（IDとパスワード）が配布されています。クラウドを通して、データを共有したり、複数のユーザーが同時に1つのファイルを編集したり、メッセージのやりとりができます。ノートでは、クラウドの特徴について理解し、体験するとともに、使用する上での留意点についても考えるようにしています。

活動スキルは、各学校のICT環境や、児童生徒のスキル差によってできること、指導すべきことが大きく変わります。生徒の実態を把握した上で、ノートの中で強調すべき点や確認程度で済ませる部分などを確認して活用しましょう。小学校編、中学校編の「みやぎ情報活用ノート」でも、関連するスキルや他の活動スキルのノートを公開していますので、必要に応じて他校種のノートを利用したり、アレンジして使用してみてもよいでしょう。

アドバイザー

東北学院大学教授 稲垣 忠

略歴

文部科学省「情報活用能力調査事業」企画推進委員や、同「次世代の教育の情報化推進事業『情報教育の推進等に関する調査研究 (IE-School)』」委員、同「『教育の情報化に関する手引』作成検討会」委員、経済産業省「未来の教室」実証事業教育コーチなど多数歴任。本教材では、活動スキル・探究スキルを担当。